

我が支部の地域貢献活動 私たちにもできること、 私たちにしかできないこと

関西学院で学んだ者は誰も「Mastery for Service」という言葉を知っている。しかし、そこに込められた深い意味を誰もが理解し、骨肉としているわけではない。それは大学での学びに加えて、社会で試され、鍛えられて初めて「わがもの」となるのである。つまり、日々の活動の中で育み続けていくべきスキル・モットーといってもよいだろう。同窓会の各支部でも、そういう思いを込めて「Mastery for Service」の活動を続けている。その一端を、8つの支部から報告してもらった。

熊本支部

くまもと関学の森

くまもと関学の森

100周年記念



2009年3月28日、子供たちも参加して行われた植樹祭

熊本支部は2009年に設立60周年を迎えました。これを記念して、学院のモットーである「Mastery for Service」の実践と、ふるさと熊本の水の量を確保する一助として「くまもと関学の森」の整備活動に取り組んでいます。人口73万人を擁する熊本市は、水道水の全量を地下水で賄うなど、地下水

に恵まれています。しかし近年は、地下水位の減少がみられ、官民挙げて水（地下水）の保全事業が行われています。

こうした背景もあって、熊本支部は「くまもと関学の森」の整備を社会貢献活動として取り組むこととしました。60周年記念事業を一過性なものではない、全国に誇りうるものにしたとの願いを込めています。まずは行政当局の支援を得て、阿蘇郡西原村依山にある大津町の町有地1,100㎡を10年間（延長可能）、無償で提供してもらいました。場所は熊本空港から東へ約10キロ、南阿蘇に向か

う幹線道路の依山トンネル入口の近くです。

資金は「熊本県の水とみどりの森づくり活動支援事業補助金」として、2回合わせて約42万円を受け取りました。用地も補助金も、学校の同窓会という任意団体での申請は初めてのケースでしたが、県も町も好意的に進めてくれました。用地と資金が決まり、2009年3月28日、30人が参加して植樹祭を行いました。ヤマザクラ、ヤマモミジ、ヤマグリ計330本を植樹しました。当日は、阿蘇の春の風物詩「野焼き」の日で、周囲の山では炎と煙が上がっていました。植樹祭には、子供や孫の成長を願って親子連れや孫連れの同窓生も見られ、「くまもと関学の森」への関心の強さが窺えました。

熊本の生命ともいえる地下水の保全に、ささやかではありますが、寄与できるものと確信しています。

ヤマザクラで花見を、ヤマグリで秋の味覚を楽しむことが私たちの願いです。



以来、毎年3回の下刈を続け、2011年3月には新たに100本を植えました。森づくりは、植えること以上に下刈が大切です。雑草に負けないよう、毎年3回の下刈は絶対に欠かせません。事業を始めるにあたっては、幾度となく若手の同窓生にこの必要性を説いて、納得してもらってからスタートしました。向こう10年間、下刈は欠かせないとの覚悟をしています。

うれしいことに昨年8月の下刈の時、ヤマグリの実が付いているのを仲間が見つけ、みんなで歓声をあげました。植樹にあたってヤマグリは実を、ヤマザクラは花を、そしてヤマモミジは紅葉を思い描いていましたが、それが早くも実現したのです。三日月が満月になっていくように、私たちの「くまもと関学の森」も年月を重ねて大きく成長し、葉をつけ、花を咲かせ、実をつけていくことに自信が持てました。そしていまは、

高槻・島本支部

市民に愛され20年

グリークラブ高槻コンサートと市民公開セミナー

1989年設立



グリークラブ新月会との世代を超えた合同ステージは恒例です

高槻・島本支部は1989年の発足当時から「同窓生が集まって友好を温めるのもよいが、何か母校に貢献できることがないか」との考えがあり、関学ブランドを高槻市民に広く行き渡らせるため何かをやるうという機運がありました。

関学といえば「グリークラブ」と「アメリカンフットボール」ということで、1992年に竣工した「高槻現代劇場中ホール」（600名収容）のオープンに合わせて「グリークラブ高槻コンサート」を、1993年に高槻市立陸上競技場が完成したのを記念して高槻市に本社のある「サンスター」と「関西学

院ファイターズ」のアメリカンフットボールの試合を実施、ともに大成功を収めました。

その後、グリークラブ高槻コンサートは、グリークラブと新月会（グリークラブOB会）をはじめ関係の皆さまのご援助とご協力により毎年継続し、2011年には20回目の記念コンサートを迎えることができました。

活動の目的は、支部同窓生の繋がりをより強固にするとともに高槻・島本地区において「関西学院」の知名度を市民の間に浸透させることにあります。近年、高槻市に関西大学が、隣の茨木市に近く立命館大学が校舎を建設してその活動をより強化しています。このためにも、一般市民の方々への関西学院のPRは今まで以上の努力が必要と痛感しています。関西学院のグリークラブは、日本でも最古の男声合唱団といわれる伝統と歴史があり、「関学ブランド」

を高槻・島本地区でPRするにはこれ以上の媒体はないでしょう。今後も、当支部のメインイベントの一つとしてこのコンサートを続けていきたいと願っています。



一方、市民公開セミナーは2004年、第16回支部総会終了後、「総会を常時100名以上の会員が集うイベント」にするために立ち上げた「総会企画プロジェクト」で、新企画「地域貢献・公開セミナー」（無料）が発案され、翌05年に第1回が始まりました。講師に嶋田恒氏（当時、関西学院大学商学部非常勤講師）を迎え、「NPOという生き方」という演題で講演していただき、大盛況でした。総会出席者も120名となり、この成功に気をよくして、翌年からも毎年開催しています。

市民の集客に関しては、支部HPでのPR以外に地区公民館等にチラシを置かせてもらっています。これに加えて、公開セミナーのテーマや内容、方向性に

よって集客の方法を少しずつ変えながら対応。例えば、テーマが教育関係の場合は、市内の公立学校校長宛のチラシを作り、教育委員会から配布してもら

関空支部

グリーククラブ合唱「コンサート」と「いちじょうの森」への支援活動

2002年設立



関空支部は10年前に発足。その時から、「地域社会に溶け込んでいくためには何をすればいいのか」ということを話し合い、「関学といえばグリーククラブ」そのきれいなハーモニーを地域の住民と共有できればという思いで



は泉佐野市・熊取町・田尻町・泉南市・阪南市・岬町の各教育委員会にも後援をいただき、毎回1000人を超える入場者を集めています。さらに70社を超える企業からも協賛をいただき、地域に支えられてここまでやってきました。2年に1度の開催で、今までに5回開催しています。会場の入口ホールでは、7つの授産所がそれぞれ心を込めて作ってきたパン、ケーキ、お菓子、小物などの販売ブースを設けて販売しており、グリーククラブの歌声と共に、地域住民と一緒に秋の一日を、穏やかな心で過ごしています。これからも、初心を

この活動を始めました。

当初から泉佐野市の小学校合唱部や、泉南市少年少女合唱団、阪南市の合唱サークルなど地域の方々にも賛助出演をお願いし、今では泉州の秋になってはならない活動になっています。今

門真支部

児童とともに

初等部児童の田植え実習を支援

1994年設立

の一步だったと思います。

忘れず、地域の人たちから親しまれる活動を続けていきたいと思っています。このコンサートとともに、社会福祉法人「いちじょうの森」へのボランティア活動も支部の重要な活動です。20年前にせき随損傷で障害者となった支部のメンバーが、自らも障害者の認定を受けながら、何か社会貢献をしたいと考え、障害のある人の役に立てればと思つて椅子を200脚、泉佐野の障害者施設で使つてもらったのが縁で、「いちじょうの森」との関係が生まれました。その後、関空支部のグリーククラブの演奏会に、50人を初めて招待しました。グリーククラブの素晴らしい音色が聞こえてくると、ざわついてきた人たちも、水を打ったように静まり返り、人の心を和らげ、優しくする音楽の持つ圧倒的な、それでいてしなやかな力を実感しました。

施設では毎年5月、ぎんなん祭りが行われますが、支部のメンバーは、その時にバザーの品物を持つて、一緒に活動に参加しています。今後もグリーククラブのコンサートと「いちじょうの森」へのボランティア活動を関空支部の活動の大きな柱として、これからもできる限りのことをしていきたいと願っています。



それは一枚のペーパーから始まりました。2007年7月18日の幹事会で配布された「門真支部再生に向けて」と題した検討資料です。そこには真剣に考え、行動しないと支部の明日はないという赤裸々な内容が記されていました。同窓会地域支部の活動として何が大切なのか、何を軸に考えねばならないのかといった内容です。具体的な活動案は内向きの一般的なものになりがちで妙案は浮かばない状況でした。その後も毎月の幹事会での検討を重ねましたが、大事なのは活動の基本理念、目的を明確にしそれを共有しなければならぬということでした。

そこで2008年5月31日、第15回の総会で支部の活動目的を①建学の理念の地域社会での実践②母校の発展に寄与するとなりました。この日が新たなスタート



秋には精米したお米バックを児童たちに届けています

門真市内の小学校でも狭い箱庭のような水田を作り児童が田植えをしています。それを見て、初等部の児童に本当の水田で田植えを体験させてあげたい、少しはお役に立ちたいという思いが日に日に強くなってまいりました。そこで校友課を通じ初等部に提案をしました。初等部内でも職員初等部長を中心にいろいろ検討され、翌2009年6月6日に第1回の「田植え実習」が実施されました。受け入れスタッフは門真支部の幹事とその家族が中心

ですが、そのメンバーのほとんどは農業体験がありません。そこでJA職員や地域の農家の方にも応援をさせていただいているのがこの活動のもう一つの側面です。

毎年、初等部から感謝の言葉をいただき恐縮していますが、このイベントを一番喜んでくれるのは支部のメンバーかもしれません。支部こそが元気をもらって感謝しなければならぬと思っています。

田植えだけでなく、レンコン掘り&天ぷら試食大会を2008年3月8日に実施しました。幹事の友人を中心に一般市民にも参加いただいています。まだ試行段階です。多くの市民に開放したイベントを理想に、その運営について検討を続けたいと思っています。

門真支部はちっぽけな所帯です。大きな風呂敷を広げても包みこむ体力がありません。身の丈にあった小さいことを積み上げることしかできないと覚悟しています。いまは「水田」「レンコン」を柱にした取組みしかできていませんが、活動の目的を明確にし、それを持続発展させることが可能かをよく検討した上で、ひとつずつ挑戦したいと思えます。地域の笑顔思い浮かべながら、あせらず進んでいきます。

宝塚支部

今日も笑顔で

初等部児童の登下校サポート活動



2008年4月、宝塚市の中心部に関西学院初等部が開校しました。それと同時に、磯貝初等部長から宝塚支部に対して「朝夕に散歩されている同窓は、



雨の日も欠かさず... この頃からネームと、スクールカラーのブルーに校章の入った揃いのジャンパーをいただき、今は下校時もサポートしています。

できれば登下校のコースを散歩して、子供たちに声かけをしていただければ」との依頼がありました。複数の同窓生が実行しましたが、当初の反応は、挨拶が返ってくるどころか、逆に不審者のように受け止められました。

そこで、瀧上滋敏副支部長と相談し、学院よりKGの腕章をいただき、立ち場所を決めて迎えることにし、警備員の手薄な3カ所を、7名の支部会員で児童の見守り隊を同年9月の2学期からスタートしました。当初は登校時のみでしたが、翌年からはPTAの皆様から「スカイレンジャーズ」のニック

初等部長よりことあるたびに感謝の言葉をいただき、責任の重大さを感じるようになった。いまは宝塚支部の最大の行事としてますます盛大に、そして参加者がよろこびを感じながら永久に続く取組みにするよう努力して行く覚悟です。

一昨年の宝塚支部設立60周年記念総会には、初等部児童や父母のご参加をいただき「空の翼」の大合唱には大変な感動を受けました。席上では子供たちより夏用のベストを手渡され、二重の感動となりました。

支部会員には「スカイレンジャーズ」にご理解をいただき、快く引き受けて下さる方があり、本当に嬉しく頭の下がる思いがします。今後は、協力者の

増員に力を入れ「スカイレンジャーズ」を支部の名物となるようにし、今日も笑顔で児童たちを見守りたいと思えます。

松山支部

文化講演会で学院の知名度アップ



松山支部は、同窓会本部の協力を得て、1994年から文化講演会を主催しています。支部組織の拡大と、当地においてハイレベルの関西学院の知識を

ら完成されているのではなく、個性を活かす指導によって、立派に磨き、育てることができ、そういうことでした。実証的な講演で、地元の人たちにも大変歓迎されました。これに気をよくして、翌年からも毎年、文化講演会を開催しています。

経済、スポーツ、社会の向上に役立ち、貢献、喜ばれる内容がよい。D. 県、市町村、教育委員会、商工会議所、関連事業所、マスコミの協賛、後援を得るためには、直接訪問し、熱心に具体的に説明し、礼を尽くし、協力をお願いする。地元の新聞やテレビにはたびたび記事広告、予告、結果の記事を無料で掲載していただいた。E. 聴講者確保のため、関係先で郵送配布される封筒の中に関学講演会のチラシを同封していただくなど経費を削減しつつ有効的なPRに努める。そのためにも、チラシ作成は遅くとも3カ月前には完成のと。

無料で開放し、学院の知名度を上げることが目的です。

第一回は当時理事長をされていた武田建教授にお願いして「アメフトに学ぶ経済学」の演題で講演していただきました。内容は、個人の持つ特性をいかに教育、指導で向上させていくか、チーム（社会）に役立つ人間に育てることが出来るか、それは経済社会にも活かせる教育である、各選手は初めか

A. 開催費用を極力抑え、効率を上げるには、母校より教授及び同窓会から知名度の高い先輩を講師として派遣していただく。B. 開催の日時、場所は支部総会と同日として、時間と労力、経費の効率化を図る。C. 講演内容は、マスコミに興味を持って報道していただける時代にマッチしたテーマを選ぶ。地方の文化、

F. 会場確保は1年前、遅くとも6カ月前。G. 入場料は無料。H. 当日、会場で関西学院の紹介チラシ。当日講演レジメを準備し配布する。I. 同窓生、在校生父母にも案内する。案内と勧誘の手紙とチラシ3〜5枚を郵送すること。J. 上記、A〜I、及び、当日の設営、運営はすべて支部幹事、同窓生の



協力と団結で実行する。
これまでに18回の文化講演会を開催。入場者数はテーマ、講師により2〜300人で推移しています。15回目の宮内義彦氏（オリックス株式会社社長・グ

ループCEO）の講演「これからの日本経済はどうなる？」の時は、商工会議所、法人会の協力で1,500人が集まりました。愛媛県内の同窓会支部も、松山、東予、今治、南予（休止中）と拡大し、現在は松山市での入試も実施され、県内同窓生も1,200人になりました。

東予支部
学院教授の講演会で関西学院をアピール



東予支部は、愛媛県東予地方の西条市、新居浜市、四国中央市の卒業生によって組織されています。1999年6月、新居浜市で設立（初代支部長、近藤司氏）

このような土地ですが、毎年、学院の先生方をお招きし、講演会を開催することにより関学で学んだ誇りと喜びを新たにすることができ、勇気付けられています。卒業生にとっては生涯学習の一環であり、スクールモットーの「Mastery for Service」（奉仕のための練達）の実践になっていることも実感しています。

愛媛県は、学院創立者ランバス宣教師の瀬戸内海伝道の拠点ですが、東予支部ではその足跡が見られません。昨年で12回を数えます。

東予地方において、同窓会支部主催で市民に開かれた講演会は、他の大学には見られず、学院独自のものになりつつあります。



講演会では、関学在校生の現地でのボランティア

活動など実践的な報告もあり卒業生として心強いかがりでした。会場では大

震災のカンパを募り多数の方の共感を得ました。

1999年設立
島根支部

出雲駅伝（全日本大学選抜駅伝競走）での応援活動



島根支部は昨秋、19年ぶりに出雲駅伝に出場した陸上競技部の大会前日の開会式から、交

6月25日、島根支部総会の席上、陸上競技部が全日本大学選抜駅伝関西地区の選考会で2位となり出雲駅伝への出場が決まったことが発表され、支部に対しても応援の要請がありました。それを受けて支部では、9月6日、「第23回出雲駅伝支援連絡会」で応援の注意事項確認



総勢60名強の応援体制を組み、バス2台で学生・同窓生が一緒に移動。神門通り（出雲大社大鳥居付近）、第3区中継点（他大学の応援団がない場所）

流パーティー、当日沿道に出での応援、そして終了後の「さよならパーティー」まで、支部を挙げての応援活動に取り組みました。

9月13日、支部会員へ応援参加の案内・支援金の要請を発送

島根支部は前回、関西学院の陸上競技部が出雲駅伝に出場した1992年に、その応援をきっかけに組織を拡大しました。今回は19年ぶりということ、応援も手探りの中でしたが、大学・同窓会本部の支援もあり、何とかやり遂げ、母校の名を上げることができました。みなさまに感謝し、その模様を報

9月17日、同窓会全国海外支部長会にて近隣支部へ案内
9月29日、支部幹事会などで準備を進め、応援体制を整えました。
10月8日、監督・招待選手来雲
10月9日、開会式
10月10日、13時05分スタート
10月10日、13時30分より「さよならパーティー」
という公式日程の合間を縫って、開会式後には、陸上部関係者と支部会員との交流会を開催。10日の大会では、

結果は大健闘の14位。次回出場は19年後とはいわず、近年メキメキと力を付けてきた陸上競技部には毎年の出場を期待しています。19年前の応援をきっかけに我が島根支部の絆を強くしてくれた選手たちに感謝し、今秋も出雲路を駆け抜ける関学のランナーを精一杯応援したいと思います。